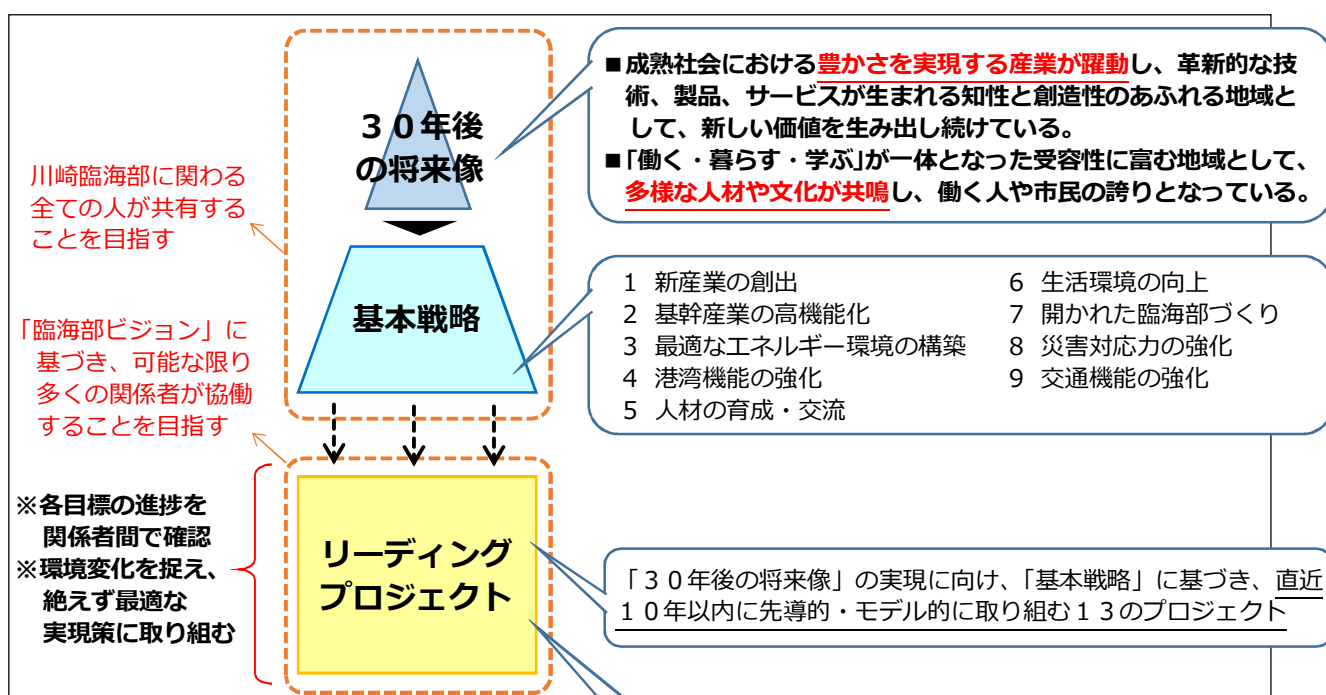


臨海部ビジョンリーディングプロジェクト 中間評価について

1 臨海部ビジョンの概要と中間評価の目的

○平成30年3月に策定した臨海部ビジョンでは、30年後を見据えた臨海部の目指す将来像、その実現に向けて取り組むべき方向性を示した基本戦略、及び直近10年以内に先導的・モデル的に取り組む13のリーディングプロジェクトをそれぞれ位置付け、策定から順次リーディングプロジェクトの取組を具体化することとしています。

【臨海部ビジョンの全体像】



プロジェクト(PJ)の概要

産業競争力強化に向けた取組

- PJ② 資産活用・投資促進 …企業の投資意欲を喚起する支援制度の導入等
- PJ⑦ 世界に誇れる人材育成 …企業の枠を超えた人材育成・技能継承の仕組みづくり等
- PJ⑧ 働きたい環境づくり …就業者向けの子育て支援施設整備や交流促進等
- PJ⑨ 緑地創出 …市民の憩い空間の創出に向けた新たな仕組みづくり等

土地利用・基盤整備推進に向けた取組

- PJ① 新産業拠点形成 …南渡田地区やキングスカイフロントの拠点形成等
- PJ⑥ 臨海空間を活かした地域活性化…臨海空間を活用した新たな賑わいの創出等
- PJ⑩ 職住近接促進 …生活利便施設等の生活環境の整備等
- PJ⑬ 交通機能強化 …新たな基幹的交通軸の整備や既存交通の強化等

エリアの価値向上に向けた取組

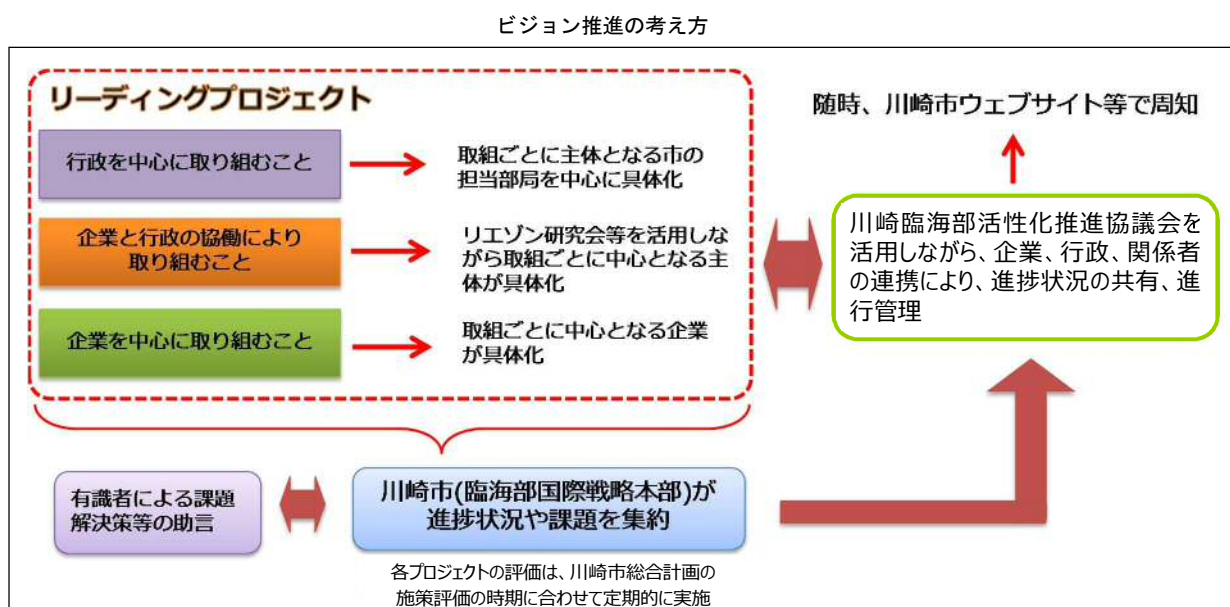
- PJ③ 水素エネルギー利用推進 …広域水素ネットワークの形成・水素利用の促進等
- PJ④ 低炭素型インダストリアル構築 …低炭素型産業エリアのモデル形成等
- PJ⑤ 港湾物流機能強化 …コンテナターミナルの機能強化、物流施設の再編整備等
- PJ⑫ 災害対応力向上 …災害発生時の地域全体の情報共有・協力体制の構築等

全体に係る取組 PJ⑪ 企業活動見える化 …臨海部の認知度・イメージ向上に向けた取組推進等

- このリーディングプロジェクトは、多くの関係者による協働により、各目標の進捗を確認するとともに、社会経済情勢などの環境変化を捉え、絶えず最適な実現策に取り組むこととしています。その実行性を確保するため、企業、行政等の間で適宜進捗状況の共有や進行管理を行うことを目的として、2年に一度の中間評価を実施します。

2 ビジョン推進の考え方

- リーディングプロジェクトの各取組は、「行政を中心に取り組むこと」「企業と行政の協働により取り組むこと」「企業を中心に取り組むこと」に分類し、川崎市が関わるものは、取組内容の具体化に合わせ、総合計画や関連分野の諸計画への位置づけと整合を図ります。また、企業と協働で取り組むことについては、主にリエゾン研究会やキングスカイフロントネットワーク協議会などの場を活用しながら関係者で情報を共有し、具体化を図ります。
- 各プロジェクトについては、川崎市（臨海部国際戦略本部）が進捗状況や課題を集約し、有識者から課題解決策等の助言を得るとともに、川崎臨海部活性化推進協議会等を活用しながら企業、行政、関係者の連携により進捗状況の共有や進行管理等を行います。



- 「臨海部ビジョン」は川崎市総合計画と整合を図りながら推進することとしていますので、各リーディングプロジェクトを総合計画の事務事業に関連付け、また、中間評価についても総合計画の施策評価のタイミングに合わせています。

総合計画の事務事業や政策評価に基づき、それぞれの成果指標の達成状況について評価を行うとともに、企業等の関係者と合意を図りながら進めてきたビジョン実現策の成果や課題を中間評価で明らかにすることで、今後の取組の方向性を最適化します。

【補足】

リエゾン研究会：NPO法人産業・環境創造リエゾンセンターの会員企業19社で構成し、産業活性化や環境創造に資する産学官民等の連携の実現に向けた調査研究事業ならびに普及・広報等に関する事業を行っている。

キングスカイフロントネットワーク協議会：立地企業、大学、研究機関及び自治体等で構成し、キングスカイフロントの持続的な発展を図るため、研究開発拠点としての魅力的なまちづくり、操業環境の向上、研究・事業活動の活性化等の取組を進めている。

川崎臨海部活性化推進協議会：臨海部立地企業・団体等、関係経済・産業団体、地域代表者等で構成し、「臨海部ビジョン」の推進にあたり進捗状況の共有や意見交換を行うとともに、臨海部の現況を踏まえた課題解決や新たな取組の検討を進めている。

3 中間評価について

(1) 評価方法

○13のリーディングプロジェクトに掲げたそれぞれの取組内容について、43のアクションプログラム(うち25は重点プログラム)に整理した上で、PDCAサイクルに基づき、各プログラムの2年間の進捗状況、評価及び今後の方向性を「評価シート」に取りまとめました。

○重点プログラムには、リーディングプロジェクトの目標達成に向け重要度や優先度の高い取組を位置付けていますので、評価にあたっては、その進捗状況を重視して区分を設定しています。

(2) 評価結果

①評価の概要

※進捗状況については順調なものから順にA-1、A-2、B、C、Dの5段階、今後の方向性については予定どおりに進めるものから順にI、II、III、IVの4段階で評価しています。

※色付きセルは、課題なく進捗したプロジェクト(A-1・A-2)、及び当初の予定どおり取組を推進するプロジェクト(I)を示しています。

No.	プロジェクト名	アクションプログラム(重点)	2年間の進捗状況/評価		今後の方向性/評価
①	新産業拠点形成PJ	・南渡田地区の拠点形成 ・キングスカイフロントの効果波及	・基本的な考え方のとりまとめ ・新たな運営体制の整備	B	拠点形成に向けた機能の絞り込み・課題の整理が必要 III
②	資産活用・投資促進PJ	・新たな投資促進制度等の構築 ・土壌汚染対応の円滑化	・制度素案の策定 ・環境対策の窓口開設	A2	予定どおり制度構築して運用を開始する I
③	水素エネルギー利用推進PJ	・広域水素ネットワークの構築 ・水素利用の促進	・新たなモデル事業のとりまとめ ・ブルネイとの実証事業実施	A2	事業性や経済性を考慮した取組推進が必要 II
④	低炭素型インダストリーエリア構築PJ	・環境技術の実証事業等の実施 ・エネルギーインフラづくり	・エネルギー最適利用の検討 ・再エネ導入に向けた支援	B	市全域の低炭素化の取組と整合を図ることが必要 II
⑤	港湾物流機能強化PJ	・港湾施設の機能強化	・道路等の基盤整備	A2	予定どおり基盤整備を推進する I
⑥	臨海空間を活かした地域活性化PJ	・新たな賑わいの創出 ・ニューツーリズムの創出	・公園活用モデル事業の実施 ・実証事業案のとりまとめ	C	モデル事業の再検証、クルーズ船誘致の見直し等が必要 II
⑦	世界に誇れる人材育成PJ	・臨海部エリア全体の教育プログラムの実施(技能人材、高度人材)	・人材育成実証講座の実施	B	本格実施に向けた運営体制の確立が必要 III
⑧	働きたい環境づくりPJ	・就業者の交流機能の導入 ・子育て支援施設の充実	・企業間交流会の一部実施 ・事業所内保育施設の開設	B	一部未実施の交流会も含め、引き続き取組を推進する I
⑨	緑地創出PJ	・新たな緑地制度の構築 ・市民に開かれた緑地の整備	・新たな緑地制度の構築 ・整備候補地の選定	A1	緑地整備に向けた具体的な協議、調整が必要 II
⑩	職住近接促進PJ	・就業者等の実態を捉えた生活環境のあり方の整理	・まちづくり方針の策定、推進	B	施設整備に向け、権利者との関係構築、個別協議が必要 III
⑪	企業活動見える化PJ	・P R活動の推進 ・子どもの学習機会の仕組みの確立	・P R取組案の策定 ・出前授業等の実施	A2	ブランディングの3つの柱に基づく取組内容の検討が必要 II
⑫	災害対応力向上PJ	・地域全体の連携の仕組みづくり ・就業者や来訪者の安全確保	・ケーススタディのとりまとめ ・防災訓練等の実施	B	企業間の相互協力に向けた課題の再整理が必要 II
⑬	交通機能強化PJ	・基幹的交通軸の整備・新たな交通ネットワーク形成・通勤環境向上	・路線バス機能強化の検討 ・企業バス共同運行の検討	B	新たなバスルート構築に向けスケジュールの見直しが必要 II

②評価区分

○アクションプログラムの達成目標に対して、この2年間での達成度を評価しています。

区分	達成度	対象プロジェクト
A-1	アクションプログラムに掲げた目標を達成した	1件 ⑨
A-2	目標達成に向け概ね予定どおりに取組を推進した	4件 ②③⑤⑪
B	概ね予定どおりに取組を推進したが、目標達成に向けた課題も顕在化した	7件 ①④⑦⑧⑩⑫⑬
C	取組推進に支障となる課題が顕在化したため、遅れが生じた	1件 ⑥
D	取組を推進した結果、アクションプログラムの見直しが必要になった	—

12件

③今後の方向性

○2年間の進捗を踏まえ、今後の取組の方向性を定めています。

区分	今後の取組の方向性	対象プロジェクト
I	現状のまま取組を継続する	3件 ②⑤⑧
II	現状の取組を一部見直して継続する	7件 ③④⑥⑨⑪⑫⑬
III	取組の進め方を見直す	3件 ①⑦⑩
IV	アクションプログラムを再設定した上で、取組の進め方を新たに整理する	—

10件

※「取組の見直し」は、遅れが生じている取組への対応のほか、順調に推進した取組が次のステップを模索する場合なども対象となりますので、目標達成の区分と連動して評価しているものではありません。

- 予定どおりに取組を推進したプロジェクトが13件中12件を占めているものの、そのうち7件については取組推進の過程で課題が顕在化しており、今後の方向性についても、見直しを行うプロジェクトが10件ありました。
- 今後、リーディングプロジェクトの目標を確実に達成するためには、2年間の成果を活かして直ちに次の段階へステップアップを図ること、あるいは課題に対応した新たな進め方を早急に再整理し、関係者と協議を進めていくことなどにより、これまで以上にスピード感を持ってプロジェクトを推進していくことが求められています。
- このため、次の2年間は目標達成に繋がる具体的な成果を意識して取組を進めていくこととし、これまでの取組実績や各種制度の枠組みに捉われず、臨海部を取り巻く社会・経済情勢や企業の実情をとらえながら常に最良の選択肢を模索し、具体的な成果を着実に創出する取組を進めていきます。

4 スケジュール

平成 29
(2017)年度

臨海部ビジョン 策定

平成 30
(2018)年度

リーディングプロジェクトの具体化に向けた取組推進

令和元
(2019)年度

各取組の進捗状況確認、中間評価案のとりまとめ

臨海部ビジョン推進懇談会 [有識者からの助言]

川崎臨海部活性化推進協議会 [臨海部立地企業等との情報共有]

令和 2
(2020)年度

中間評価の庁内確認

総務委員会報告 [臨海部ビジョン中間評価の結果について]

※全議員及び報道機関への情報提供

川崎臨海部活性化推進協議会 [臨海部立地企業との情報共有]